

おさるがふねをかきました

詩教材 (詩は一時間扱い)

一 よむ 四名(二回) 読む順番をずらして

ゆつくり はつきり 大きな声で  
腰を立て 本を持って 静に聞く

二 とく (読後感の話し合い) (詩の種の予想)  
○ 題目 (題名から話し合いを始める)  
(絵を見ながら猿の状況を問う)

① 今日は、お猿さん、友だちも遊びにきて  
いません。そこで、何をしようと考えまし  
たか。(答えにあわせて 船の絵を板書)

② この船はどこに浮かんでいる船かな。  
(答えに合わせて 海水を板書)

③ 天気はどうですか。(太陽を板書)

④ この船の絵を見て、お猿さんはいいこと  
考えたね。(答えに合わせて 煙突を板書)

⑤ これで、船も勢いよく進みますが、どち  
らに進むの。(板書をもとに答えさせる)

⑥ 君たちなら、これで船の絵は完成です  
ね。でも、お猿さんは、どうしたの。

○ 山 (この詩の特徴を話し合う)

⑦ 尻尾は、船のどちらに描きますか。  
(尻尾を板書)

⑧ この絵を見て、お猿さんのしたことは何  
ですか。(お猿さんがいい絵が描けたと喜んだ詩です)

○ 手引 (詩の場合は 全文視写)  
(一年生のこの時期なので半分視写する)

三 よむ (黙読)

四 かく (視写) (板書全文 連の番号も)

五 よむ (指黙読 指音読)

六 とく (板書をもとにした話し合い)

○ 語義・区分

① 難しい言葉はありますか。  
(子どもから無くても教師側から  
必要な語句については質問する)

② 「ふねでもかいてみましょう」と「ふね  
をかいてみましょう」は、どう違うかな。

③ 「けむりをもこもこ」の「もこもこ」は  
どんな煙ですか。

④ 「なんだか」という言葉は、はつきりし  
ている時に使いますか、はつきりしない時  
に使いますか。

⑤ お猿さんが絵を描いているのは何番です  
か。(①③④は、何をしていますか)

○ 心(この詩の核心 詩の生まれた種の確認)

⑥ お猿さんは、この絵を見て、喜びました。  
どの言葉で、分かりますか。

⑦ (逆立ち↓体全体で表現しています)  
ほんとにじょうずにかけたな↓この中で、  
気持ちがいいのは、どの言葉です  
か。(ほんとに)と「かけたな」の

「な」の語感の扱いをする)  
(教師が「な」を入れる場合と  
入れない場合で読み分けて聞かせる)

⑧ こんなに喜んだのには、わけがあります。  
何番にそれがありますか。(③)

⑨ どうしたらお猿さんらしい絵になったの  
か。尻尾が着くと何がなくなるの。

⑩ 最初は、こんなに喜ぶような絵になると

思っています。どの言葉で分か  
りますか。(でも)  
\* いい絵になってお猿さんが大喜びをしたと  
いう詩です。

七 よむ 指音読 暗唱

〈板書事項〉

おさるがふねを

かきました

① ふねでもかいて

おさるがふねを

かきました

② けむりをもこもこ

はかそうと

えんとつ いっぱん

たてました

③ なんだかすこし

しつぽも いっぱん

つけたなと

④ ほんとに

じょうずに

かけたなと

さかだち いっかい

やりました